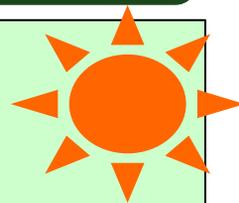


育苗箱全量施肥法の中生品種への適用



- 育苗箱まかせ 100日タイプ **1** : 育苗箱まかせ 120日タイプ **2** に混合して使用することで

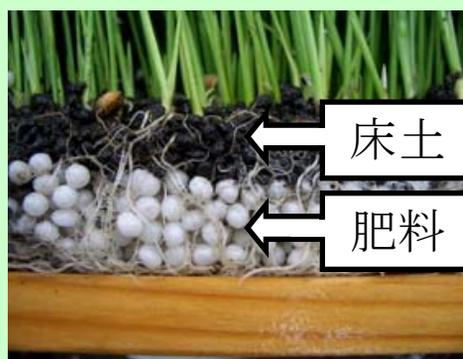
育苗箱全量施肥法を中生品種へ適用することができる。

(適用品種) きぬむすめ、おまちかね

○ 化成慣行の**8割窒素量**で化成慣行と同等の収量が得られる。

○ 玄米中窒素濃度は化成慣行より低く抑えることができる。

○ 育苗箱まかせを種籾と接触させると苗立不良を生じる可能性があるため、施肥位置は必ず床土下とする。



○ 肥料の混合はブルーシート等を用いて簡便に均一化することができる。
(作業員2名、肥料30kg、混合時間5分)



1) シートの上に肥料を置く



2) 左右を一回ずつ持ち上げる



3) 前後を一回ずつ持ち上げる。

※試験のため、肥料を赤く着色した。

以上の操作を **5回** 繰り返す。

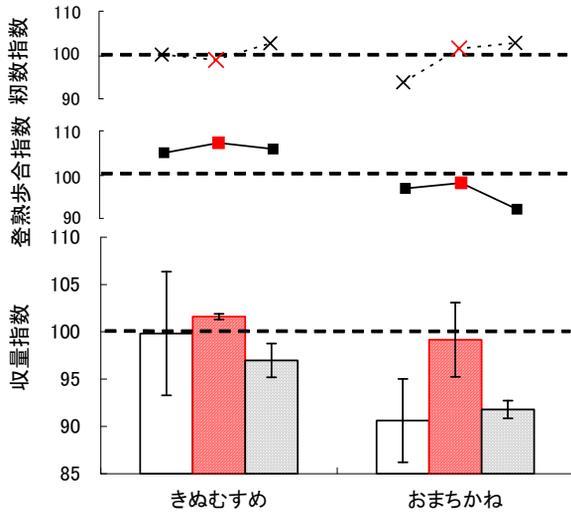


図1 混合割合別にみた収量、登熟歩合、粗数の指数 (化成慣行=100)

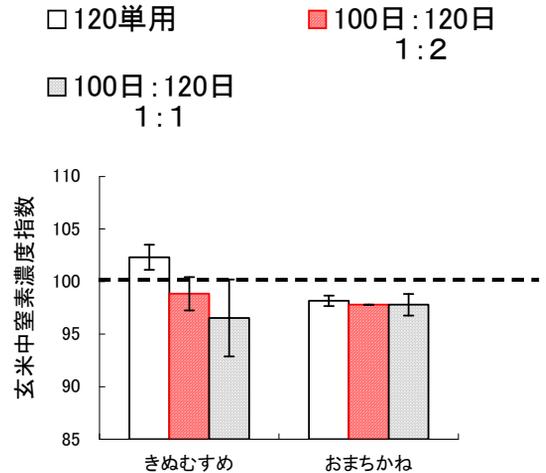


図2 混合割合別にみた玄米中窒素濃度の指数 (化成慣行=100)

注・凡例中の120単用は苗箱まかせ120日タイプのみを施用した場合を、100日：120日=1:2は100日タイプ：120日タイプ=1:2の重量比で混合した場合を、100日：120日=1:1は100日タイプ：120日タイプ=1:1に混合した場合を示す。
 いずれも施肥窒素量は慣行対比7~8割。化成慣行窒素量は、きぬむすめ10kg/10a、おまちかね8kg/10a
 ・慣行収量：きぬむすめ563kg/10a、おまちかね597kg/10a
 ・慣行玄米中窒素濃度：きぬむすめ1.30%、おまちかね1.37%
 ・栽培年（移植日）：きぬむすめ（2007(6/11)、2008(5/30)）、おまちかね（2005(5/23)、2006(5/23)）。
 ・縦棒は標準偏差を示す。

表2 処理内容と苗の生育

区名	肥料位置	肥料の混合比	肥料量 (g/箱)	生育ムラ	マット強度 (N/5cm)	葉色 (SPAD)	草丈 (cm)	苗乾燥重 (g/100本)
床下	床土下	120単用	970	無	24.2	4.2	13.0	1.38
		100(1):120(2)	970	無	31.7	4.7	13.1	1.41
床上	床土上	120単用	970	有	-*	-*	-*	-*
		100(1):120(2)	970	有	-*	-*	-*	-*
慣行	-	-	0	無	44.4	3.1	10.6	1.20

注1) * 生育ムラを生じたため計測不可
 2) マット強度は7N/5cm以上あれば実用上問題ないとされている。

留意点

○育苗箱全量施肥法の基本的な取り扱いについては1998年新しい技術「被覆肥料を用いた窒素の水稻育苗箱全量施肥法」を参照。

○本技術の適用作期は5月中旬植から6月上旬植とする。

(問い合わせ先)
 鳥取県農林総合研究所 農業試験場 環境研究室
 TEL : 0857-53-0721

※ 本書から転載複製する場合には必ず
 農業試験場の許可を受けて下さい